

インターバンクの声（2014年10月3日）

特段の材料がない木曜日であれば、昨夜の米新規失業保険申請件数のように1万件と言えども減少結果を好感したドル買いになっても良かったはず。しかしながら、ちょうど欧州中央銀行（ECB）理事会の発表時間と重なり、しかも市場がユーロ買いに反応したドル売りに巻き込まれてしまったことで、失業保険申請件数の減少効果は全くなかった。市場はむしろその後の8月米製造業受注の大幅な悪化や、一度2.40%台まで戻していた米10年債利回りが再度2.30%台に低下したことなどが響いたのか、ドル円はこの日のドル最安値となる108円割れ寸前まで下落する展開となった。ただ108円では纏まった買い興味があるとの噂も広がり、米10年債利回りが2.40%台に戻る動きを見せたことで108円台半ば近くまでドルが買い戻された。ただ昨夜の欧米市場ではユーロのショート・カバーが相場を主導していたために、全体的にドルの戻りは対円相場などを中心に限定的なものになってしまった。米雇用統計に波乱結果はないような気がするが、結果次第で107円台もあれば109円台回復もありの相場だろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。